AMPL BOOKS

AIノートの整理

メモを次の一歩に変える、小さな練習帳

AMPL Books 制作見本

この冊子について

組版を確かめるための見本

この冊子は、AMPL Books の共通部品を別の題材で確かめる制作見本です。入力例と編集コメントは架空の文章です。特定の AI サービスの機能や、実証された効果を説明する教材ではありません。

原文と出典を分けて残す

実際の書籍を作るときは、著者、確認日、出典、権利の条件をその本に合わせて記載します。この見本にある文章や図は、公開や販売の承認を表すものではありません。

目次

この見本の読み方 4

全体像を先に見る 5

01　受け取る 6

1.1　整理する範囲を決める 7

02　分ける 8

2.1　仮の見出しを付ける 9

03　確かめる 10

3.1　原文へ戻って読む 11

04　使う 12

4.1　次の一歩を選ぶ 13

早見表 14

参考文献・出典 15

奥付 16

この見本の読み方

一冊の流れを確かめる

この冊子は、書籍の組版を確かめるための架空の教材です。AI にメモの整理を頼む場面を借りて、章の扉、本文、図、入力例のつながりを示します。特定のサービスの機能や効果を説明するものではありません。

原文と整理結果を分けて置く

本文では、週末の持ち物を考える短いメモを使います。整理された文章を読むときも、元のメモへ戻れるようにしておきます。この練習では、整理の上手さを点数で競いません。自分が次にすることを読み取れるか、試してみます。

補足　入力例と編集コメントは、この見本のために作成した文章です。実在の人物の発言や、実施済みの利用試験ではありません。

紙面のしるし

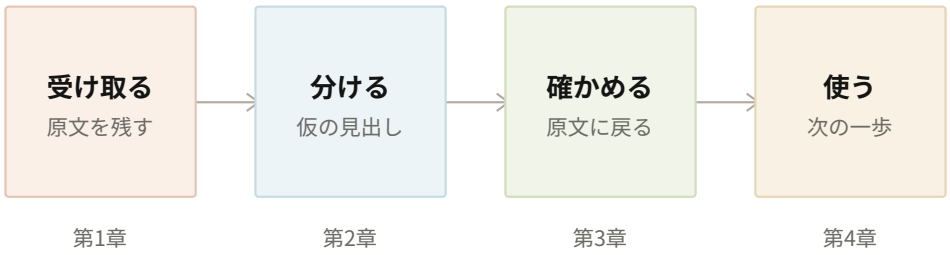
淡い色の見出しは節の始まりです。左に英語、右に説明がある場所は、作業の呼び名を整理する欄です。濃い小さな札の付いた枠は、入力文の例です。「補足」は読み進めるときの短い注意を置きます。

全体像を先に見る

四つの場所を行き来する

手元のメモを受け取り、仮に分け、原文に戻って確かめ、使う順番に並べます。どこかで迷ったら、一つ前の作業に戻れます。この順番は、本書の練習を読み進めるために用意したものです。

図 1　原文から次の一歩まで



左から右へ進みます。迷ったときは、原文を残した最初の場所へ戻ります。

この図に戻る

各章の色は、図 1 の四つの場所に対応します。入力文を直したいのか、整理結果を確かめたいのか。今いる場所を決めてから、必要なページを開きます。

CHAPTER 01

Receive

受け取る

まず、元のメモをそのまま残します。整理を始める前に、今回扱う範囲を決めます。

この章で読むこと

1.1 整理する範囲を決める 7

原文、作業の範囲

1.1 整理する範囲を決める

01

短い一つのメモから、整理の練習を始めます。

原文を残す

練習用のメモは「週末は図書館へ。本を返す。雨なら傘。帰りにパンを買う」です。別の場所へ**原文を残す**ことを先に済ませ、整理を頼む文を作ります。買う物を勝手に足したり、予定の時刻を決めたりしない条件も添えます。

Receive

受け取る

整理を始める前に、元の文章と今回の目的を用意します。この練習の目的は、予定と持ち物を分けて見られるようにすることです。

練習用の入力例

次のメモを「予定」「持ち物」「買い物」に分けてください。原文にない予定や品物は足さないでください。
メモ：週末は図書館へ。本を返す。雨なら傘。帰りにパンを買う。

補足 元の文章にないことが必要なら、整理結果と分けて「確認したいこと」として残します。

CHAPTER 02

Sort

分ける

見出しは仮に置きます。うまく入らない文は、元の意味を保ったまま残します。

この章で読むこと

2.1 仮の見出しを付ける 9

見出し、保留

2.1　仮の見出しを付ける

02

短い文を、使う場面ごとに分けて眺めます。

一度で決めなくてよい

「雨なら傘」は、持ち物と天気の条件を含みます。一つの分類だけに収めようとして、条件を消さないようにします。見出しは読みやすくするための仮の置き場所です。迷う文は、迷った理由と一緒に残します。

表 1　練習用メモの仮の整理

仮の見出し	原文にあること	残す条件
予定	図書館へ行く、本を返す	週末
持ち物	傘	雨なら
買い物	パンを買う	帰りに

Sort
分ける

見出しと内容を並べて、どの文をどこへ置いたかを見ます。どれにも当てはまらない文があれば、無理に言い換えず保留します。

補足　この表は、見本の短いメモを分けた一例です。すべてのメモに同じ見出しが合う、という意味ではありません。

CHAPTER 03

Check

確かめる

整理結果を原文と並べます。抜けた条件と、追加された内容を一つずつ見ます。

この章で読むこと

3.1 原文へ戻って読む 11

照合、条件

3.1 原文へ戻って読む

03

整理結果だけを読んで、確認を終えないようにします。

条件を一つずつ探す

元のメモと**整理結果**の表を並べ、「週末」「雨なら」「帰りに」が残っているかを見ます。次に、原文にない時刻や品物が増えていないかを見ます。意味を変えた言い換えに気づいたら、元の文を添えて直します。

この見本の編集担当 原文引用

読みやすくなったかを見る前に、残すはずの条件が消えていないかを見たい。

制作メモ（本ページに掲載する架空例）

編集コメントの出どころ

上のコメントは、出典を示す欄の見本として作成した文章です。実在の専門家や読者の声ではありません。実際の書籍で他者の発言を置くときは、名前、要約か引用かの区別、出典を用意します。

照合を頼む入力例

原文と整理結果を比べ、抜けた条件と、原文にない追加を別々に挙げてください。判断できない箇所は、そのまま示してください。

CHAPTER 04

Use

使う

整えたメモから、次にすることを一つ選びます。必要なら短い形に書き直します。

この章で読むこと

4.1 次の一歩を選ぶ 13

行動、見返す

4.1 次の一歩を選ぶ

04

整理した文章を、使う場面に合わせて短くします。

全部を一度に使わない

図書館へ出かける前なら、返す本と天気の条件を見ます。買い物の場面なら、買う物の行を見ます。元のメモを残しておけば、短くした行だけでは分からない条件にも戻れます。

Use

使う

整理結果から、今回必要な一行を選びます。短くしたことで条件が落ちていないか、最後にもう一度読みます。

短くする入力例

整理結果から、出かける前に確認することだけを短く並べてください。「雨なら」の条件を残し、原文にない品物は足さないでください。

補足 この練習は、身近で小さなメモを題材にしています。人に渡す文章では、使う目的や確認すべき内容に合わせて進め方を考えます。

早見表

受け取る p. 7

元のメモを残し、今回扱う範囲を決める。

分ける p. 9

仮の見出しを付ける。迷う文は条件と一緒に残す。

確かめる p. 11

原文に戻り、抜けた条件と追加された内容を探す。

使う p. 13

次に必要な一行を選ぶ。短くしても条件を残す。

参考文献・出典

1　**この冊子の入力例・編集コメント**
本見本のために作成した架空の文章。外部資料からの引用はありません。

2　**図 1　原文から次の一歩まで**
本見本のために作成した図。本文の四つの作業を図示しています。

3　**組版の出典**
AMPL Books 採用済み組版から抽出。デザインシステムの decisions.json に、元ファイルと採用境界を記録しています。

奥付

AI ノートの整理

著者　AMPL Books 制作見本
版　デザインシステム見本 第 1 版
発行　AMPL Books

組版と部品の検証用に作成した非売品の見本です。内容の有効性を確かめた教材ではありません。

小さく整理して、使ってみる。

原文を残す。仮に分ける。確かめる。次の一歩を選ぶ。

AMPL BOOKS / DESIGN SYSTEM SPECIMEN